

## 1. 人生会議(ACP)と南区の取り組みの普及

### 【熊本市 8020 健康づくりの会 巻委員】

中央区の総会で南区の林委員を招いて講演を実施した際、アンケートで「自分を知るために必要だ」との声が多く寄せられた。まだ人生会議を知らない他の会員にも周知するため、今後の総会などでも詳しく聞く機会を作っていきたい。

### 【認知症の人と家族の会熊本県支部 福永委員】

「自宅での看取り」にこだわっていた会員が、人生会議セミナーへの参加を通じて「本人の意思」を深く考えるようになり、最終的に施設での看取りを受け入れるなど考えが柔軟になった事例がありました。非常に有意義な内容であるため、自身も機会があればぜひ参加したい。

### 【東区ケアシステム推進会議代表 豊田委員】

臨床現場では、最期のときのためにメッセージノートを使って家族と話しをするよう伝え、拒絶されることが多い実情がある。そうなる前に、元気なうちから自分の希望を周囲に話しておくことが重要であり、南区のような取り組みを通じて、「家族と話すことの必要性」をさらに啓発してもらいたい。

### 【北区ケアシステム推進会議代表 戸渡委員】

南区の「私の思い手帳」はコンパクトで非常に素晴らしい様式であると思いました。熊本市全域、あるいは県内全域に広まるよう、市全体の取り組みとしての検討や、予算を確保して全ての高齢者や家族に配布してもらえればと思う。

### 【熊本県看護協会 大道委員】

自身の父を施設で見送った際、事前に急変時の希望を共有できていたことが安心感に繋がった経験がある。尊厳を守りながら最期を迎えられるよう、意思決定ができる元気なうちに家族と希望を共有できる環境を作る必要があるのではないか。

### 【熊本県社会福祉士会 窪田委員】

最後を迎える際の自分の希望を話し合うことは大事だが、身寄りのない方や病気や障がい等で判断能力が低下された方の意思決定を支えることも考える必要性がある。厚生労働省から出されている、意思決定に関する5つのガイドラインについて、専門職や関係機関がこのガイドラインを周知・理解し、支援に活かしていくべきであり、市全体で人生会議の事業を進める際にも参考にしてほしい。

## 2. 救急体制との連携および在宅医療の方向性

---

### 【中央区ケアシステム推進会議代表 黒木委員】

国の調査では救命救急との体制整備ができている自治体は3割程度であるとのこと。看取りと急変時の対応について、南区において救急との体制整備はどこまで進んでいるのか。

### 【南区福祉課】

救急隊と完全に体制を整備するまでには至っていない。急変時に救急車を呼ぶかどうかを含め、事前に本人の意思表示をしておくことの大切さの啓発に取り組んでいる。

### 【熊本市医師会 玉野井委員】

在宅医療や看取りを支援する上で、地域での連携体制が重要。在宅医療や看取りに関する今後の取り組みの方向性について、もう少し詳しく教えてほしい。

### 【医療対策課】

現在は出前講座等で啓発を行っているが、より市民に身近な内容となるよう検討している。在宅医療介護連携協議会についても、今後は認知症、感染症、災害対応も含めた内容を取り入れながら、より実効性のある取り組みを進めていきたい。

## 3. 熊本メディカルネットワークの活用(ICT 連携)

---

### 【熊本市地域包括支援センター連絡協議会 金澤会長】

熊本県内ですでに約18万人が登録している「熊本メディカルネットワーク」では、「自分の思い」を記すACP機能(生活情報ビューア)があり、検査結果等とともに医師や救急時にも活用することができる。

## 4. 介護予防サービスの検証とデータ活用

---

### 【熊本県言語聴覚士会 池田委員】

「私の思い手帳」について、これまでの4年間でどのような項目にチェックが入る傾向があったのか、体験談や統計的なデータがあれば教えてほしい。また、口腔機能の面から協力していきたい。

### 【熊本県理学療法士協会 竹内委員】

短期集中予防サービスを増やす際の具体的な検証内容や、後期高齢者健診との一体的実施の取組状況を教えてほしい。

### 【熊本県作業療法士会 内田委員】

データに基づく課題の「見える化」が必要と考えている。サービス終了者が「通いの場」につながった割

合などを確認し、本来の目的に合わせた事業内容の再検討が必要ではないか。

#### 【高齢福祉課】

栄養や口腔の事業における課題を改めて検証し、取り組みを進めます。データの見える化や他部署との連携については、専門職を交えたワーキンググループを立ち上げて検討を進めていきたいと考えている。

#### 【国保年金課】

高齢者保健事業と介護予防事業の一体的実施では、フレイル予防や生活習慣病の重症化予防を通じて健康寿命の延伸を目指し、個別支援や啓発などに取り組んでいる。

### 5. 移動支援と身寄りのない高齢者へのニーズ把握

---

#### 【中央区ケアシステム推進会議代表 黒木委員】

平時の移動支援だけではなく、災害時における移動支援についても、オンデマンドタクシーの活用などの先進事例の情報収集の際に事例収集する等工夫し、災害時に機能する仕組みを検討してほしい。

#### 【北区ケアシステム推進会議代表 戸渡委員】

北区では公共交通機関の運行本数が減り、移動手段が限界に来ているため、やむを得ず運転を続ける高齢者の事故も発生している実情がある。ボランティア等の支援だけでは厳しいため、公共交通の運用検討や免許返納対策など、多様な方面から環境づくりが必要ではないか。

### 6. その他

---

#### 【南区ケアシステム推進会議代表 林委員】

地域包括ケアシステムは、行政だけでなく住民を含めた全員で進めていく必要がある。全体会議において各区の取り組みをスライド等で視覚的に共有し、お互いの活動を知る機会を作ることや、市内の状況を全員がより把握できるよう会議の回数を増やすなどが必要ではないか。

#### 【中央区ケアシステム推進会議代表 黒木委員】

第10期はつらつプランの策定に向けて、85歳以上や身寄りのない高齢者が抱える課題をニーズ調査等で把握してもらいたい。